



能登路に自転車仲間との交流が広がった。17日に開幕した第23回「ツール・ド・ノト」の400キロ能登半島一周サイクル・サイクル2011。あいにこの雨にもペダルをこぐ足は軽やかに、台湾や日本震災の被災地の愛好者など遠来の愛好者も、ゴールにむかひ喜びで達成感に満ちた表情を並べた。【一面に本記】



輪島塗ヘルメット  
展示で漆の美満喫  
○「マリントウ」の観光案内所には、加波次吉（かばりきち）漆器店、輪島市河井町川が製作した輪島塗のヘルメット、写真1と自転車が展示され、ゴールした出場者が手に取りながら、漆の光沢と柔らかな肌触りを楽しんだ。

# 遠来勢 ペダル軽やか

## 台湾の協会初参加

初めて大会に参加した台湾、華僑自転車騎士協会メンバーは、砂浜や岩場、めが委ねるコースを満喫し



ゴール後に、地元ボランティアによる団子汁を味わう台湾のサイクリング協会のメンバー＝輪島市マリントウ

## 「石川の魅力伝えたい」

「台湾では近年、趣味で自転車を乗る人が増えており、イベントによっては参加者が2倍以上に増えているという。陳理事長は「大会の運営がスムーズなところも、大会の出場とほかの石川の名所への観光を組み合わせた旅行などさらに台湾と日本の交流が進むよう取り組んでいきたい」と話した。

利長 家持くん 腕にチーム高岡全員走った「チーム高岡」は34人全員が完走した。メンバーは腕に「高岡」の文字、腕に高岡市のマスコットキャラクター「利長くん」が描かれたユニフォームを着用した。

屋の休憩地となった志賀町常楽領家のシーサイドウェイラフォーでは、サポートメンバー12人が駆けつけ、絆を深めた。高岡市のほり旗を掲げて全国から集った参加者にPRした。

## 「東北魂」駆け抜けた

東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県石巻市から一日コースに参加した会社員大橋さん(38)は「東北魂」のスイッチを車体に貼り付け、能登を駆け抜けた。「元気をもらった。来年の大会までにかかるとなしても復興させてまた能登を走りたい」と笑顔を見せた。

石巻市の内陸部「任んではいる大橋さんは妻と家族4人は無事だった。東日本大震災の被災地の宮城県石巻市から駆け付けた大橋さん。

### 2度目参加 石巻の大橋さん

### 「復興へ元気もらった」

だが、沿岸部の友人や親類が亡くなった。震災発生から数日後、大好きな自転車で巡った街はがれきりで埋め尽くされていた。

ツール・ド・ノトの出場は今回が2度目。震災以来、趣味で自転車に乗る機会がほとんどなかったため、今年の出場は見送ろうと考えたが、昨年に行った能登の美しい人情の温かさが頭を離れず、再び能登路に向かった。

昨年1月約1時間早くゴールできた大橋さんは、「復興にもこの東北魂で取り組みたい」と力を込めた。

### 出場者をサポート

競輪・小嶋選手 アテネ五輪代表・唐見さん

○競輪の小嶋敬二選手、アテネ五輪ロードレース日本代表の唐見実世子さんが昨年の大会に続いて指導自転車として参加し、出場者をサポートした。

先頭集団を力強くリードした小嶋選手は「雨に負けない皆さんの気合の入った表情を見るのができて良かった」と充実の表情をみせ、唐見さんも「雨のツール・ド・ノトとは初めてで楽しかった。2日目以降もしっかり参加者を支えたい」と話した。